

平成23年8月15日

道研と私

せたな町立若松小学校
教頭 佐々木 朗

道研のアンケートの覽でいつも悩むところがある。「今回の講座で何回目ですか。」

20回は超えていることは確実なだけでなく、さて、正確には何回だろう。という位道研にはお世話になっている。さらに理科センターも一緒になったこともあり、それもいれると30回近いのではないかと思う。

道研と私ということで、少し振り返ってみたいと思う。最初に道研にお世話になったのは、桜丘小学校時代（S61～H2）だったと思う。当時公開研究会を開催するというので、全職員で夏休みに出かけ、ミニ講習会を受けた記憶がある。また、この時代には宮ノ森の理科センターに何回か行った記憶がある。その後も数回、理センに出かけたが、どれ一つ外れと思うような講座はなかった。

その後は、どっぷり情報教育に関わる講座につかかってしまう。恵山町立東光中学校時代（H3～H10）である。その最初は小笠原先生との出会いであった。当時は、情報教育指導者養成講座という名称であったと思う。学習指導要領が改訂され、中学校に選択教科として情報基礎が掲げられた。時代で中学校では、急ピッチでコンピュータの導入が進んだ。

講座は、FCAIが中心であった。クリックすると他のページにジャンプするような今で言うHTML（ホームページの言語）のようなものであった。ある程度プログラ

ミングの知識があった私は、裏のタグで細かい設定などもいくらか覚え、プログラムには自信をつけてきた。しかしながら、今思うと、いくら道研で一週間びっちりやっても、一般人が自分で教材を組めるようになるものとはほど遠いものであったと感じる。そのFCAIを使って、平成5年には渡島進路指導研究会の大会授業者としてFCAIを使った函館近郊の高等学校の紹介ソフトウェアを活用し、授業を行った。

時代は、小笠原先生から石谷先生に代わり、WINDOWSを中心としたアプリケーションを使った授業のあり方の研究に移っていった。この頃は、毎年といっていい程、情報教育の講座に出席していた。そういう何年間かを通して、全道の第一線で活躍している方々とはだいたい人のネットワークを作ることが出来てきた。

七飯町立藤城小学校（H11～H19）は尾崎先生との出会いの時代であった。道研の研修主事としてお勤めになり、情報教



育に関わるすばらしい指導者として、私たちのめんどろをみていただいた。中でもデジタルコンテンツ作成検討委員会では、私もその委員の一人となり、動画を盛り込んだHTMLファイル形式の「電気自動車」という理科のコンテンツを作成し、検証授業を行うことができた。また、尾崎先生がいる間には、夏・冬には必ず、道内の第一線のメンバーが道研に集い、自主研修を行い、ハードウェア、ソフトウェアそして、情報教育とは何かということ語り合った時代であった。この時に宿泊棟にもLANが引かれた。

道研の普通講座の方も、奥崎先生、仁藤先生の時代となった。この頃は、学校にもパソコンがあたり前のように導入されたが、教員によって使う、使わない、使える、使



えないなどの機器に対する考え方やスキル差があり、悩みを交換し合った。

この数年では、VBAの講座に何回か参加させていただいた。エクセルは関数を駆使することにより、校務の情報化に大きく寄与させることができる。合計や平均は多くの方が基本中の基本関数として使うことができるが、思ったように使いこなすというのは、それぞれがかなり勉強をしなければならぬ。私は東光中学校の時代に、こ

の表計算の便利さに、目覚め、定期テストの教科ごとの集計をコンピュータ化するなどの取り組みをしてきた。最初はコンピュータを使うことでの反発もあったが、一度使ってみると、その反対は皆無になった。エクセルのスキルは、それなりのものを持っていると思っていたが、初めてのVBAではかなり苦労した。エクセル関数の知識を持っていることが返って「こんな関数でやればできるっしょ。」という思いになってしまうのである。でも、データを目的のシートに振り分けたり、シートからデータを集めたり、自動で問題を作成したりということは、関数だけでは、出来得ない。VBAの講座の一回めは、挫折であった。その昔はプログラマーだったので、雰囲気は周りの受講者以上は感じ取ることができたと思う。でも自分で、プログラムを組むまでにはいたらなかった。2回目の受講で、何とか、基本的な計算、くり返しと分岐、条件文、シートやセルの操作をマスターした。道研が終わって、札幌でVBAに関する書籍を数冊買い求め、自分で徹底して勉強した。まだ、人に教える域には達していないが、何とか自分で思うようなプログラムを組めるようになってきた。

私にとって、道研とは何か。2つのことをあげたい。一つは人のネットワークである。これまでかなりの数の受講者の先生方や道研、情報処理センターの先生方と出会った。北海道情報教育連絡会（以後発展的に解散）を立ち上げに携わった時も、道研での出会いがどれだけ役だったかわからない。もう一つは、スキルアップである。私はいつの間にか年齢も50台を迎えるに至ってしまった。大学時代にコンピュータを

覚え、学校にコンピュータのコの字もない時代から、情報教育に携わり、その推進に努めてきた第一線の実践家であると思っている。これからも、自分自身のスキルアップ、特に専門のエクセル、ホームページ、ネットワーク構築などに磨きをかけていくと共に、檜山や渡島、そして全道の教育の情報化の一翼になれるようにがんばってい

きたい。また、児童生徒の情報活用能力の育成のため、情報教育のあり方についても研究を進めていきたい。

このように道研は、私の研修歴そのものであり、毎回毎回、道研の前に立ち、襟を正しながら、研修を進めてきた。今後何回行けるかわからないが、これからも道研人生を歩んでいきたい。